



渋谷に癒しのアート空間が出現！「セルフケア」の視点から作品を紹介

心の声をきく わたしを生きる術（すべ）

2026 年 6 月 27 日（土）－ 8 月 30 日（日）東京都渋谷公園通りギャラリーにて開催

2026.6.27(土)–8.30(日)

Saturday, 27 June – Sunday, 30 August 2026

東京都渋谷公園通りギャラリー
Tokyo Shibuya Koen-dori Gallery

わた
した
きる
を
術すべ

The Art of Living True

吉田雅美
YOSHIDA Masami

志村信裕
SHIMURA Nobuhiko

植本一子
UEMOTO Ichiko

稲田萌子
INADA Moko

心の
声をきく

Listening to the Inner Voice

東京都渋谷公園通りギャラリーでは、2026 年 6 月 27 日（土）から 8 月 30 日（日）まで、
展覧会「心の声をきく わたしを生きる術（すべ）」を開催いたします。

「ご自愛」や「セルフケア」など自分をいたわり、気にかけることへの関心が高まっています。本展では、その一つの方法として「心の声をきく」ことに焦点をあて、自然との関わりや日常のなかで紡がれる表現、自分自身の心地よさをもとに、自分自身と向き合うように制作する、アール・ブリュットと現代美術の作家 4 名を紹介します。

アール・ブリュット作家と現代美術作家による「セルフケア」に通じる多様な表現

「セルフケア」をテーマに、描く動作を楽しむことから生まれる円環や点・線のドローイング、木漏れ日など日常の中の風景を映し出す映像インスタレーション、決まった形式であるがゆえに日々の小さな変化が現れる日記、エッセイや写真を通して自身と向き合う過程を綴った作品など、鑑賞していて心地よさを感じられる作品、日常を省みるきっかけをくれる作品を紹介。マインドフルネスやジャーナリングといった、セルフケアにまつわる実践にも通じる作品は、鑑賞者に、自分をいたわり「心の声をきく」ための新たな視点をもたらします。

渋谷の喧騒を離れ、ゆっくり自分と向き合う展示空間

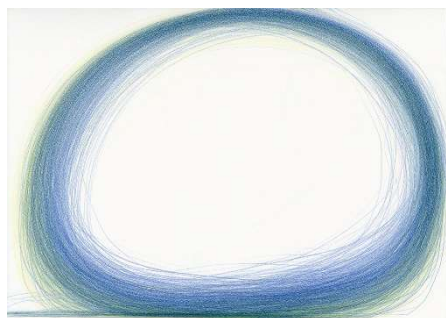
丸みを帯びた什器やカーテン等で空間を仕切り、やわらかな雰囲気の中で、ゆっくり過ごせる空間づくりをします。各展示室にはベンチを設置。座りながら、時間をかけて作品を見るもよし、物思いにふけるのもよし。展示室で過ごすひとときが、渋谷の喧騒を離れ、やすらぐ空間で自分と向き合う時間となることを目指します。

— このリリースにかかるお問い合わせ／取材お申し込み —

東京都渋谷公園通りギャラリー 広報担当 （（公財）東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 文化共生課）

Tel : 03-5422-3151 Fax : 03-3464-5241 E-mail : pr-skdg@mot-art.jp

出展作家紹介



図版① 稲田萌子《無題》2019年
画像提供：クラフト工房 La Mano

稲田萌子 INADA Moeko

1985年、京都府生まれ。2003年より、クラフト工房 La Mano（東京都町田市）に所属。色鉛筆のこすれる音や感触を楽しむように、時に童謡を口ずさみながら、ゆったりとしたリズムに身を任せるようにして円や線を描く。その時々好きな動きをもとにした、稲田の感覚的な心地よさによって生まれる作品は、まるで繭のような柔らかさと光をたたえている。



図版② 植本一子《ここは安心安全な場所》より
2025年

植本一子 UEMOTO Ichiko

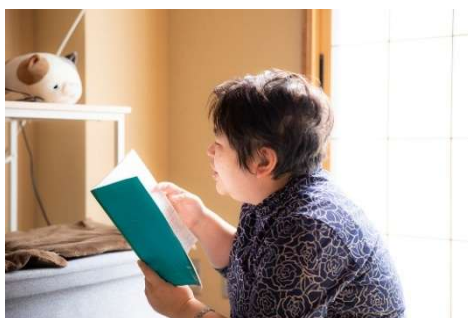
1984年、広島県生まれ。現在、東京都を拠点に活動。2003年、キヤノン写真新世紀で優秀賞を受賞し、写真家としてのキャリアをスタートさせる。2013年より自然光を使った写真館「天然スタジオ」を立ち上げ、一般家庭の記念撮影をライフワークとしている。写真家としての活動のほかに、自らと実直に向き合うように綴られた日記やエッセイを多数発表している。



図版③ 志村信裕《Dress》2012/2015年
撮影：加藤 健

志村信裕 SHIMURA Nobuhiro

1982年、東京都生まれ。現在、千葉県香取市を拠点に活動。武蔵野美術大学大学院映像コース修了。身近な日用品や風景を題材とした映像インスタレーションをはじめ、その場所の歴史や記憶を浮かび上がらせるサイトスペシフィックな作品を数多く手がける。近年はドキュメンタリーの手法を取り入れ、見落とされてきた社会問題や歴史に焦点をあてる映画／映像作品を制作している。



図版④ 吉田雅美 朗読する様子（2026年3月）
撮影：植本一子

吉田雅美 YOSHIDA Masami

1982年、東京都生まれ。社会福祉法人しらかばの会 たてしなホーム（長野県北佐久郡立科町）で工芸班に所属。工芸班の活動の時間には、好きな文章の朗読を行う。また、日記を書くのが幼少期からの習慣という吉田は、食事や作業の後、自身の行動をノートに記録する。日記には、その日にあったことや食べたものについて記されており、吉田の日常が浮かびあがってくるものである。

開催概要

展覧会名	心の声をきく わたしを生きる術 (すべ)
会期	2026年6月27日(土) - 8月30日(日)
開館時間	11:00-19:00 ※夜間特別開館: 8月の金曜日(7,14,21,28日)は21時まで開館
休館日	月曜日(7/20は開館)、7/21
会場	東京都渋谷公園通りギャラリー 展示室1・2 (東京都渋谷区神南1-19-8 渋谷区立勤労福祉会館1F)
入場料	無料
出展作家	稲田萌子、植本一子、志村信裕、吉田雅美(五十音順)
デザイン・イラストレーション	惣田紗希
主催	東京都渋谷公園通りギャラリー(公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)
展覧会ウェブサイト	https://inclusion-art.jp/s/innervoice
問い合わせ	inclusion@mot-art.jp



*開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。

関連イベント

●アーティスト・トーク(手話通訳付き) 開催日時: 2026年7月12日(日) 14:00~15:30

*ほかにも会期中にイベントを予定しています。詳細は当ギャラリーウェブサイトをご確認ください。

同時開催

【交流プログラム】

いっしょにアトリエ「ちぐはぐの壁 あの線、この線、だれの線？」

開催期間: 2026年6月27日(土) - 8月30日(日)

会場: 東京都渋谷公園通りギャラリー 交流スペース

合板やプラスチック、金属など、さまざまな素材が組み合わさる「ちぐはぐの壁」が交流スペースに登場。ふらっと立ち寄って、壁に自由に線を描いたり、思いがけない線との出会いを楽しんだり。「線」だけでどのような表現が生まれるのでしょうか? 子どもから大人まで、誰もが自由なかかわり方で参加できる交流プログラムです。

■東京都渋谷公園通りギャラリーとは

東京都渋谷公園通りギャラリーは、アートを通してダイバーシティの理解促進や包容力のある共生社会の実現に寄与するために、アール・ブリュット等をはじめとするさまざまな作品の展示等により、一人ひとりの多様な創造性や新たな価値観に人々が触れる機会を創出します。



〒150-0041 東京都渋谷区神南1-19-8 渋谷区立勤労福祉会館 1F

開館時間: 11:00 - 19:00

休館日: 月曜日(祝休日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始、展示替え期間

電話: 03-5422-3151 FAX: 03-3464-5241 メール: inclusion@mot-art.jp

[取材・画像使用申込書]

東京都渋谷公園通りギャラリー 広報担当 行

E-mail : pr-skdg@mot-art.jp Fax : 03-3464-5241

取材および広報用画像について

本展覧会の取材を希望される場合は、本紙に必要事項をご記入の上、EメールまたはFAXにてお申し込みください。
 また、このリリースの出展作家紹介に掲載されている画像①～④をデータにてご用意しております。画像を希望される場合は、希望画像の番号（ここに掲載されていない画像も相談可）をご記入の上、広報担当までご連絡ください。

取材希望

画像使用希望

取材希望日時	
使用希望画像	
貴社名	
貴媒体名	
種別	TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー WEB その他（ ）
掲載・放送予定日	
ご担当者名	
Eメールアドレス	
ご住所	(〒)
お電話番号	
FAX	
その他	

なお、取材および写真使用に際しましては、以下のことをお願いしております。

- ・ 作品画像を掲載する際は、当該作品のクレジット（作家名・作品名・制作年・所蔵・提供）を必ず明記してください。
- ・ 掲載画像のトリミング、文字載せはお控えください。
- ・ 記事掲載・放送日が決まりましたら、事前にご連絡ください。併せて、掲載内容もお知らせいただけますと幸いです。